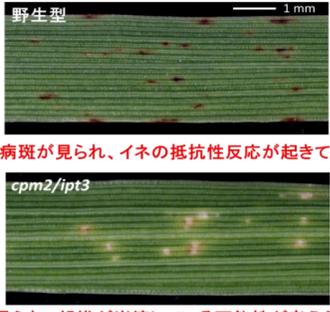


バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

<p>学会名</p>	<p>植物化学調節学会 第52回大会</p>
<p>演題名</p>	<p>イネの病害抵抗性におけるサイトカイニンとジャスモン酸の関与</p>
<p>発表者</p>	<p>○※石塚祐伸、宮本皓司、南栄一、西澤洋子、湯本絵美、柴田恭美、酒澤智子、横田孝雄、朝比奈雅志、飯野盛利、岡田憲典、山根久和 【植物化学研究室】</p>
<p>内容</p>	<p>本発表では、イネの病害抵抗性におけるサイトカイニンとジャスモン酸の機能を報告した。まず、サイトカイニンとジャスモン酸の両方を欠損する変異体をゲノム編集により作出した。その後、変異体を用いたもち病菌に対する抵抗性を評価したところ、サイトカイニンとジャスモン酸の両方を欠損する変異体において抵抗性が著しく低下したことを示した。本研究は、植物化学研究室の大学院生の修士論文研究の一環として行われたものである。</p>
<p>関連画像</p>	<div style="text-align: center;">  <p>野生型</p> <p>褐色の病斑が見られ、イネの抵抗性反応が起きている。</p> <p>cpm2/ipt3</p> <p>白斑が見られ、組織が崩壊している可能性が考えられる。</p> <p>本研究で作製した変異株の病徴</p> </div>